

# JAPAN ICOMOS / INFORMATION

INTERNATIONAL COUNCIL ON MONUMENTS AND SITES

JAPANESE NATIONAL COMMITTEE 日本イコモス国内委員会

6期—2号



## CONTENTS ♣

- はじめに／前野まさる 01  
President's Message / Masaru MAENO
- 2004 年次第1回拡大理事会報告 (3/21) / 山田幸正 02  
Reports on the 1st Meeting of the Executive Board, 2004  
Yukimasa YAMADA
- 「無形および有形の文化遺産に関する沖縄宣言」のご報告／益田兼房 05  
Comments on Okinawa Declaration on Intangible and  
Tangible Cultural Heritage / Kanefusa MASUDA
- 無形および有形の文化遺産に関する沖縄宣言 07  
Okinawa Declaration on Intangible and Tangible Cultural Heritage
- ICOMOS 専門分科委員会 CIAV 2004 年次会議の企画／前野まさる 11  
Announcement for the Annual Meeting of CIAV 2004  
Masaru MAENO
- お知らせ／山田幸正 12  
Announcement / Yukimasa YAMADA
- 日誌／事務局 14  
Diary

2004.6.1

はじめに  
前野まさる



4月の始め頃、慶応大学の三宅理一先生から電話をいただき、韓国で開催する朝鮮通信使の会議に出席して欲しいとの要請をいただきました。朝鮮通信使の話は98年に納の浦問題で相談受けた際にもあり、02年に日大の伊東孝先生の案内で港町ネットワーク港巡りをした際にも、御手洗で朝鮮通信使の展示を拝見して、関心をもっていました。今回の日韓会議でこの問題が両国専門家間で深く掘り下げられていることを知りました。日本では壱岐から江戸まで記録やルートが確かめられるのに、韓国では釜山止まりであった理由も初めて教えられ、なるほどと納得したものでした。

こうしたことから、6月5日の拡大理事会後の研究会のテーマに、彦根と関係の深い朝鮮通信使を選び、ごく最近の日韓両国間の文化遺産の研究を取り上げました。

一方、中国 ICOMOS では2005年の ICOMOS 北京総会控え、アジアのネットワークづくりの準備に力を注いでいます。日本イコモスでも、石井昭第5小委員会主査で進めているブルガリア ICOMOS との共同事業「プロヴディフ旧市街保存地区内文化財建造物修復事業」もスタート。10月には、愛媛県内子町を中心にして、ICOMOS CIAV (民家専門委員会) 開催の準備が進んでいます。

本年後半は何かと忙しい年になりそうです。こうしたことは、日本イコモス会員の皆様のお力添えなしにはできません。是非とも宜しく願いいたします。



イラスト／前野まさる (全て)

# 2004年次第1回理事会(拡大理事会)報告

2004年次第1回理事会(拡大理事会)が去る3月21日(日)午後1時半から5時半まで東京恵比寿の文化財保存計画協会会議室で開催された。出席者は、委員長:前野まさる、顧問:伊藤延男、理事:岡田保良・小野 昭・杉尾伸太郎・西浦忠輝・濱崎一志・矢野和之・山田幸正、国際専門委員:杉尾邦江の各氏で、報告事項・審議事項は以下の通りであった。

## 報告事項

### 1. 日本イコモス総会報告

JAPAN ICOMOS INFORMATION誌第6期1号を3月1日付けで発行し、そのなかに昨年12月13日(土)に開催した2003年次日本イコモス国内委員会総会に関する記録を掲載したのでご参照いただきたい旨、前野委員長より報告された。

### 2. US/ICOMOS Summer Internship Program

去る2月3日に、標記インターンシップについてメールにて問い合わせのあった下記の学生に対し、申請手続き等について説明した。後日、指導教員である平山育男教授(長岡造形大学・建築史)の推薦状を含めた申請書類が送付されてきた。前野委員長と矢野事務局長でそれを審査した結果、標記インターンシップの候補者として適当であると判断したので、US/ICOMOSに推薦する旨の書類を送付した。なお、採用決定の通知は5月くらいになると思われる。以上のように、前野委員長より報告された。

本年度のインターンシップ候補者:佐藤彩子  
東京都出身。長岡造形大学環境デザイン学科文化財保存コース1999年3月同大学卒業。2002年8月より、Ball State大学にて研究生(non-degree student)として在学。2003年8月より正規の学生として在学中。

### 3. 国際専門分科委員会報告

#### 1) 考古遺産管理運営委員会(ICAHM)

第6期1号のインフォメーション誌で報告したように、当委員会の機構改革によって副会長制が導入され、事務局長からの推薦により、日本のVoting Memberである小野が、South-East Asiaの副委員長になった。また、とくに重点的な課題とされているのが、Heritage at Riskへの取り組みで、2003年の総会でICAHMのなかに当該問題のSub-committeeが正式に組織されることになり、世界10地域でそれぞれHeritage at Riskの年次報告を出す企画が始動した。以上の通り、小野 昭理事より報告された。

#### 2) STONE委員会

昨年度は二度の会議が開かれ、そのうち、第二回の会議は日本のVoting Memberである西浦が事務局を引き受ける形で、タイ・バンコクで開催された。日本から東京文化財研究所を中心に6名が参加し、ほかにタイ(4名)、カンボジア(2名)をはじめ、その他外国から16名が参加した。本年2004年度の第一回会議は、6~7月にストックホルムで開催される予定である。以上の通り、西浦忠輝理事より報告された。

#### 3) ヴァナキュラー建築委員会(CIAV)

第3回理事会で報告したように(インフォメーション誌第5期10号に掲載)、本年度のCIAVの2004年次会議を10月12日~16日、愛媛県内子町などを会場に開催する予定で準備を進めている。会議の主題は「歴史的伝統的民家・町並みの持続可能な保存方策について」である。なお、愛媛県では内子町、宇和町、大洲市を中心に本年4月~10月にかけて「愛媛町並み博2004」を開催する。日本のVoting Memberである前野とAssociate Memberである大野敏氏を中心に、愛媛県や旅行者などと日程、予算などの調整を進め、現在、(財)文化財保護振興財団に国際会議のための助成金の申請を行っている。以上の通り、配付文書にもとづき、前野委員長より報告された。

#### 4) 歴史的庭園・文化的景観委員会(ICOMOS-IFLA)

ICOMOS歴史的庭園および文化的景観に関する委員会(ICOMOS-IFLA)の2003年会合が10月2日から5



日までの間、ドイツ・ベルリンおよびバートムスカウで行なわれ、日本から Voting Member である杉尾が出席し、大野渉氏がオブザーバーで同席した。

世界遺産である「ポツダムとベルリンの宮殿と庭園」における修復工事の状況やピュックラー王子の手によるムスカウ公園での修復状況等について視察を行ない、ドイツから説明があった。ドイツ・ザクセン州のナイセ川に面するバートムスカウでは、公園内の城はもちろん、ビスタの修復のほか、ドイツとポーランドの国境であるナイセ川にかかった二重橋（ドッペルブリュッケ）の修復が進められている。ひとつの公園の修復が国境をいう障壁を乗り越えようとしている象徴的な王事である。また、修復された城では、歴史的公園の修復技術をはじめとする造園技術者を教育するための「ムスカウ学校」が設置される。ドイツおよびポーランドは同公園を世界遺産に登録するために準備を進めている。ムスカウ公園に関する情報として、日本ではピュックラー王子の書である「造園指針」Hints on Landscape Gardensが1932年に長岡行夫によって翻訳されていることや、故岡崎先生（京大名誉教授）が1934年と1990年に同公園を訪れた際の印象を書物に書き残されていることを杉尾から報告した。

委員の任期・定員についての議論があり、そのなかで、これまで会議等に参加してきたアジア太平洋地域のメンバーである杉尾に対して、ICOMOS-IFLA委員会の Effective Member（理事）へ立候補するよう要請があった。

次回合会は、2004年11月頃にモロッコ・マラケシュで開催される予定である。

また、(財)ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所主催で「庭園とそれを取りまく自然」と題する国際シンポジウムおよび国際会議が、本年1月16～18日、奈良県新公会堂において開催された。シンポジウムは公開で300人ほどが集まり、会議には中国、ドイツ、インド、オランダ、韓国などから参加者があり、日本からは10名が参加した。以上の通り、配付文書にもとづいて、杉尾伸太郎理事より報告があった。

## 5) Earthen Architecture 委員会

第6期1号のインフォメーション誌でも案内があったように、今年の International Day for Monuments and Sites (4/18) のテーマは“Down to Earth-Earthen Architecture and Heritage”で、これにあわせて、イランの Arg-e Bam でワークショップが4月16日～20日に開催される予定である。

また当委員会の再建・改革を進展させるために、アローズ氏を中心としたタスク・フォースが立ち上がった。以上の通り、岡田保良理事より報告があった。

## 4. 小委員会報告

### 第5小委員会（プロヴディフ旧市街保存事業協力班）

すでに報告してきた通り、日本ブルガリア両国イコモス国内委員会の共同企画にもとづく「プロヴディフ旧市街保存地区内文化財建造物修復事業」は、昨年7月、ユネスコ文化遺産保存日本信託基金 UNESCO/Japan Trust Fund の供与対象として正式に採択された。その後、ユネスコの対応、特にブルガリアへの送金が予定よりはるかに遅れて、現場の事業そのものは我々が期待したほど思わしく進んでいない。ブルガリア ICOMOS との Bulgarian-Japanese ICOMOS Joint Working Group は着々と仕事をしており、来る3月28日から4月6日まで正味一週間、現地のプロヴディフで会議が開かれ、石井昭主査と麓和善委員が現地に赴く予定である。

以上の通り、石井主査からの電話連絡をもとに矢野理事より報告された。

## 審議事項

### 1. 新規入退会者の承認

[個人会員入会者]

入会者	現職	推薦者
野老正昭	野老設計事務所代表取締役	前野まさる・矢野和之
勝部 昭	(財)鳥根県文化振興財団事務局長	町田 卓・斉藤英俊
西 和彦	文化庁文化財部建造物課	荻谷勇雄・矢野和之

## [個人会員退会者]

CHESTER LIEBS                      アメリカ帰国のため

これまでに申請のあった上記3名の新規個人会員の入会および1名の退会を、審議の結果、承認した。

## 2. 理事業務分担

前野委員長より以下のような提案がなされ、審議の結果、これを了承した。

日本イコモス国内委員会の運営および事業を円滑に進めていくために、次の6つの分担ごとで会合を開くなどして、各理事に積極的に会務の運営に参画していただきたい。

### 1) 渉外担当：

稲葉信子（まとめ役）、河野俊行、赤坂信  
ICOMOS関係の海外情報に対する対応、伝達など。国際専門分科委員会のVoting Memberのところに来た情報の収集や対応。事務局と連携して行なう。

### 2) 会員担当：

杉尾伸太郎（まとめ役）、矢野和之、益田兼房、小野昭、西浦忠輝  
日本イコモス国内委員会の会員の在り方について検討。

### 3) 事業担当：

町田章、田中哲雄、西浦忠輝、浜崎一志、日高健一郎、宮川朝一、岡田保良  
日本イコモス国内委員会の事業として何をなすべきかについて検討。国際専門分科委員会の活動・活性化について検討。文化遺産の保存に関する啓蒙活動の検討（社会人、及び学生向け講演会の企画）。国際会議の企画検討。

### 4) 広報・編集担当：

山田幸正（まとめ役）、赤坂信、宮川朝一  
JAPAN ICOMOS INFORMATION誌の企画編集。ホームページの企画立上げ。

### 5) 庶務担当：

矢野和之（まとめ役）、前野まさる  
日本イコモス国内委員会の庶務一般。

### 6) 会計担当：

矢野和之（まとめ役）、渡辺保弘  
日本イコモス国内委員会の決算、予算、財政などについて検討する。

## 3. 理事会開催年間計画

日本イコモス国内委員会の理事会(拡大)をこれまで通り、年間4回程度開催することとし、以下のように、東京以外で2回程度開催できるように提案したい旨の発言が、前野委員長よりあり、これを了承した。

第1回 3月21日：東京／ 第2回 6月初旬：関西地域／ 第3回 9月初旬：世界遺産登録地域（姫路、白神、白川、広島、日光、沖縄、熊野）／ 第4回（総会）12月初旬：東京

次回第2回の理事会は、6月5日～6日の滋賀県彦根市での開催をめざして準備を進めることになった。

## 4. JAPAN ICOMOS INFORMATION 誌発行

次号第6期2号の発行は、5月中頃としたいとの前野委員長よりの提案があり、これを了承した。杉尾理事より、誌面に維持会員（国内）になっていただいている企業の名称を掲載するよう提案がなされ、これを了承した。

## 5. 研究講演会の企画

現在、日本イコモス国内委員会の会員が参加している国際専門分科委員会は、現在、16を数える。昨年、会員全員に対して関連または興味のある国際委員会についてアンケート調査を実施したが、その結果を一覧化した名簿を、各委員会のVoting MemberおよびAssociate Memberに送付するので、それぞれで国際専門分科委員会活動に関わる近況報告会・情報交換会あるいは研究会などを積極的に企画していただきたい旨の提案が前野委員長よりなされ、理事会としてこれを承認した。

## 6. アジア ICOMOS ネットワーク

UNESCO本部から問い合わせのあった、アジアにお



ける委員会メンバーのインフォーマル会議について、西村幸夫本部副会長から、下記の点をアジア太平洋地域での懸案事項として議論してほしい旨の提案があった。

- 1) 急速に開発が進んでいる国が多いので、バッファゾーンの法的保護のあり方に関して、より統一的なガイドラインが必要であるという点。
- 2) 棚田などの文化的景観の国際的な comparative study が必要だという点。
- 3) 太平洋の小国の各種支援のあり方
- 4) 無形文化遺産との関連に関するアジアにおけるガイドライン(たとえば宗教行事、神事等の扱い、少数民族の言語の扱い、伝統行事とそれを支える空間の関係など)に関する研究
- 5) 植民地建築・都市(今年インドからムンバイの鉄道駅(旧ヴィクトリア・ターミナル)が申請されている)のアジア地域における comparative study

この話題とあわせて、本年7月7～12日に中国・北京で ICOMOS アジア・太平洋地域会議が開かれることに関連して、中国との対応をめぐる多面的な議論が行なわれた。

## 7. 京奈和自動車道路建設に関する見解

ICOMOS パリ本部事務局長より、標記の件について日本イコモス国内委員会の見解が求められており、そのため現在、上野邦一氏と協議のもとに意見書を作成すべく作業中であることが、前野委員長より報告があり、引き続き、関係者と協議のうえ努力いただくことにした。

## 8. 日本イコモス国内委員会のレターヘッド作成

渉外上、日本イコモス国内委員会のレターヘッドが必要であるとの認識で、その原案をつくったので、検討をお願いしたい旨の提案が、矢野理事よりなされた。レターヘッドをつくることは承認されたが、ICOMOS のマークを使用することについては、ICOMOS 本部に問い合わせるべきではないかという意見が出された。

(文責：山田幸正)

## 「無形および有形の文化遺産に関する沖縄宣言」のご報告

立命館大学 歴史都市防災研究センター 教授  
益田兼房

2004年3月27日、沖縄での文化遺産に関する国際専門家会議で、表記の「沖縄宣言」が採択されました。ここにご紹介の機会をいただき、感謝申し上げます。原語は英文ですが、その日本語訳とともに全文を掲出いただいたので、ご覧ください。採択に至るテキスト作成の経過は右のとおりですが、その背景と課題等についてご報告します。

「沖縄宣言」で取り上げている沖縄の御嶽(ウタキ)は、宣言文の注にもありますように、森とその中の小さな広場空間で、日本本土の鎮守の森の原型ともいえるでしょう。

御嶽は、沖縄の世界遺産にも斎場御嶽や園比屋武御嶽門が含まれていますが、そのプリミティブな一つのイメージを、今回の会議で現地視察の対象となった竹富島の例から、ご紹介しましょう。島の氏子集団が各々祖先神として崇拝する御嶽の場合、森の中のそれぞれの広場は祭礼行事のときに数十名が筵を敷いて座れる広さがあり、清らかな白い砂が敷き詰められています。広場の正面には、数名が座れる小さな拝所があって、その奥には神がおりたつ一段と清らかな空間があり、女性だけが立ち入れる最も聖なる場所となっています。森の中の広場に至る細い参道の入り口には、現在は鳥居が立っています。

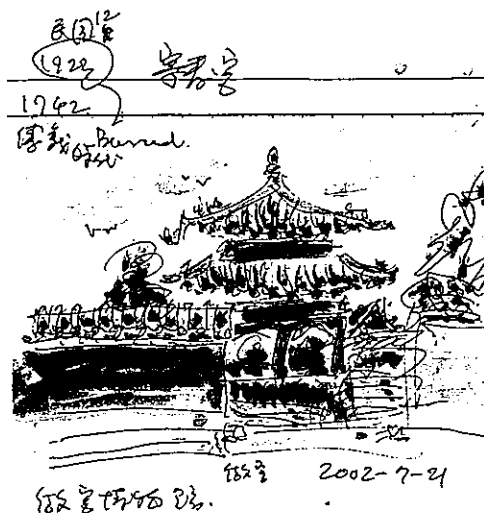
この御嶽の空間は、毎年十数回もある島の年中行事ごとに氏子たちが清掃や手入れをし、歌や芸能を奉納することで、良好な維持管理がされています。というのは結果であって、まず、人々は自分たちを守ってくれる神々を畏れ敬う気持ちから、神々を海の彼方のニライカナイからお迎えし、神のまえて歌い舞い饗食することを楽しんでいます。見事な舞いや音楽が奉納できこそ、一人前の集落構成員として扱われるのです。重要伝建地区内にある世持御嶽の「種子取祭」の伝統芸能

は、2日間にわたって七十余りが奉納されますが、重要無形民俗文化財に指定されています。このようなアニミズム信仰やそれに伴う多様な芸能という、無形の文化遺産が伝承されてはじめて、小さな広場が聖なる空間としての意味を帯び、歴史を担う記憶の場所としての価値を持って、有形の文化遺産として大切に継承されるわけです。現在の氏子御嶽の多くは、おそらくは16世紀以前の集落跡をその背後の森の中に保存しており、考古学的遺跡の一部を構成しています。そして、本来の場所であることが、無形の行ないをそこで続けることの正当性を保証しているのです。

このような、無形の文化遺産と有形の文化遺産での価値の相互依存の関係が、容易に読み取れる場所として、沖縄の御嶽はアフリカやアジアのアニミズム文化などと共通する性格を持ち、日本では貴重なものといえましょう。しかし、沖縄本島地域では、地域社会の変貌や都市化に伴って、公共事業等で失われる御嶽が毎年多数に上り、その沖縄文化にとっての価値を再認識することが緊要な段階です。益田は、この数年間、科学研究費「東アジア周縁部の土着の聖なる空間に関する研究」で御嶽の保存を考えてきたのですが、その国際的価値を知ってもらうために、昨年度の国際交流基金と沖縄県の主催する沖縄フォーラムに協力して、ユネスコやイタロム、アジア諸国の有形と無形の文化遺産専門家の参加をいただき、その結論としてこの「沖縄宣言」の採択をいただくことができました。会議の準備から宣言文まで、日本イコモス会員で無形遺産条約の生みの親でもある河野俊行先生に、多大のご協力をいただいたことを、この場を借りて改めて御礼申し上げます。

昨年10月にユネスコ総会で採択された無形遺産条約は、数年後に発効の予定ですが、すでにある有形の文化遺産の保護に関わる世界遺産条約と重なる性格の部分はどう取り扱うか、ユネスコのなかでも現在検討が行なわれています。無形遺産条約の中では、芸能などの演じられる本来の空間を、CULTURAL SPACE文化的空間と定義して、保護の対象にしています。また世界遺産条約に限らず、有形の文化遺産保護の中では、その担う無

形の価値を評価に組み込んできています。例えば奈良ドキュメントでは、オーセンティシティの評価要素として、無形の技能や機能、意味などを重視しています。ユネスコと文化庁は、奈良ドキュメントから10年目に当たる今年、10月20日から23日頃の日程で、奈良でこのような問題を検討する国際専門家会議を開催する予定のようです。「沖縄宣言」では、最後に、これら両条約を担う専門家等の協力関係を探るための国際会議を開催することを求めており、奈良会議はそれに応えるものとなることが期待されましよう。



# Okinawa Declaration on Intangible and Tangible Cultural Heritage



## 無形および有形の文化遺産に関する沖縄宣言

「無形および有形の文化遺産に関する沖縄宣言」(以下、「沖縄宣言」とする)は、国立劇場おきなわにおいて平成16年3月27日に開催された平成15年度沖縄国際フォーラム「沖縄のうたきとアジアの聖なる空間：文化遺産を活かしたまちづくりを考える」(主催：国際交流基金・沖縄県、後援：外務省、国土交通省、文化庁)において採択されたものである。「沖縄宣言」の起草は、フォーラムのコーディネーターを務めた益田兼房氏の呼びかけによる少人数の作業グループ内での検討から始まった。この作業グループは、神野善治氏、河野俊行氏、ハーブ・ストーベル氏、リークス・スミーツ氏、益田兼房氏の5名からなり、河野氏のリードのもとに、3ヶ月をかけ「沖縄宣言」で考慮するべき項目内容の検討を行なった。3月26日に開かれたパネリスト会合において作業グループによる検討内容が提示され、パネリストによる討論を経て「沖縄宣言」原案が作成された。この「沖縄宣言」原案は、翌日の公開シンポジウム最終セッションにおいて参加者に提示され、満場一致の賛成により採択された。

「無形および有形の文化遺産に関する沖縄宣言」の作成と支持に関わったパネリストは、以下の方々である。  
(姓の五十音順、敬称略)

安里 進 (浦添市教育委員会文化部長、日本)  
アン・チュリアン (アンコール遺跡保護管理機構文化調査部長、カンボジア)  
上勢頭同子 (竹富島喜宝院院主、伝統芸能保持者、日本)  
大城 学 (国立劇場おきなわ運営財団企画制作課長、日本)  
神野善治 (武蔵野美術大学教授、日本)  
河野俊行 (九州大学教授、日本)  
ハーブ・ストーベル (ICCROM 世界遺産条約コーディネーター)  
リークス・スミーツ (UNESCO 文化局無形遺産課長)  
趙 綺芳 (東華大学民族文化学部助教授、台湾)  
陳 永龍 (生物文化多様性ワークショップ代表、台湾)  
東出紀子 (東南アジア山岳民族文化・開発高地研究NGO

代表、タイ)

備瀬ヒロ子 (都市科学政策研究所代表、日本)

萩尾俊章 (沖縄県教育庁文化課文化財係長、日本)

藤岡啓太郎 (国土交通省都市・地域整備局街路課課長補佐、日本)

ジョイスリン・マナンハーヤ (文化芸術委員会遺産保存専門官、フィリピン)

益田兼房 (東京芸術大学教授・立命館大学客員教授、日本)

(原文：英語)

## Okinawa Declaration

on

## Intangible and Tangible Cultural Heritage

### 無形および有形の文化遺産に関する沖縄宣言

2004.03.27

Realizing the importance of the utaki\* as the venue for rituals of the communities in Okinawa and the dual character of its intangible and tangible heritage;

沖縄のコミュニティーにとって、御嶽\*が祭祀の場として重要であり、また御嶽が無形遺産および有形遺産としての二つの性格を有することを認め、

Inspired by the rituals presented to us by the people on Taketomi Island, but concerned by the actual state of many utaki elsewhere in Okinawa;

竹富島の皆さんのおかげで体験できた祭礼行事によって私たちは強く励まされ、しかし同時に、沖縄のその他の御嶽が置かれた現在の状況を憂慮し、

Confirming that such rituals, characteristic of the utaki belief system, are an invaluable example of cultural diversity in the world;

このような御嶽信仰の特徴である祭礼行事が、世界の文化の多様性を表す貴重な実例であることを確信し、

Reaffirming that the international community recognizes that cultural diversity is as necessary for humankind as biodiversity is for nature, as expressed by UNESCO's Universal Declaration on Cultural Diversity (2001), the Nara Document on Authenticity (1994) and many other international and regional documents;

2001年に採択されたユネスコの「文化的多様性に関する宣言」、1994年の「オーセンティシティに関する奈良ドキュメント」等の国際的なあるいは地域的な文書に宣言されているように、国際社会は、生物多様性が自然にとってそうであるように、文化的多様性が人類にとって必要であることを承認したことを再確認し、

Acknowledging that traditional belief systems and their associated "cultural spaces" are increasingly under threat in Okinawa and elsewhere in the world;

そのような伝統的な信仰の体系とそれに関わる「文化的空間」が、沖縄のみならず世界の他の地域においても、ますます脅威にさらされていることを認識し、

Recognizing that these threats include

- (1) rapidly changing social and political environments and consequent changes of cultural values, particularly in the younger generations,
- (2) lack of awareness among decision-makers, which can lead to insensitive development programs,
- (3) exposure to unsustainable tourism, and
- (4) conservation measures which give undue weight to material aspects of heritage, without adequate attention to the meaning of associated traditions, rituals, and practices for the community;

このような脅威として、

- (1) 社会的・政治的環境の変化、その結果として生じる文化的価値観への影響、とりわけ若者の価値観の変化、
- (2) 立法、行政等の決定権者の意識の欠如と、その結果として生じうる思慮に欠けた開発計画、
- (3) 過剰な観光化のもたらす影響、
- (4) 文化遺産の有形的側面に偏りすぎ、それに関連する

伝統、祭礼行事、生活習慣がコミュニティにとってもつ意味に十分な配慮を欠いた保存措置、が挙げられることを確認し、

Therefore

We, the participants of the Okinawa International Forum 2004, "Utaki in Okinawa and Sacred Spaces in Asia: Community Development and Cultural Heritage" hereby declare that 我々、平成15年度沖縄国際フォーラム「沖縄のうたきとアジアの聖なる空間：文化遺産を活かしたまちづくりを考える」のパネリストは、以下を宣言する。

1. Awareness-raising, community involvement, local capacity building, and documentation are necessary conditions to ensure the sustainability of the intangible cultural heritage;

1. 無形文化遺産を確実に維持するためには、コミュニティの意識の覚醒と向上、コミュニティの関与、地域の能力向上、記録とその保存が必要である。

2. Awareness-raising is best fostered by recognition of the importance of intangible cultural heritage by, among others, the international community, as this recognition empowers local communities to protect and further develop their intangible cultural heritage;

2. コミュニティの意識を覚醒し、向上させるには、とりわけ国際社会がその無形文化遺産の重要性を認知することが有効である。なぜならその無形文化遺産が国際的に認知されることによって、コミュニティはそれを保護する力、発展させる力を得るからである。

3. The built and/or natural environment (including cultural landscapes) often plays an irreplaceable role for the manifestation of intangible cultural heritage;

3. 無形文化遺産を表現するうえで、周囲の人為的環境や自然環境(文化的景観を含む)は、かけがえのない役割を果たすことが多い。

4. Integrated actions aiming at safeguarding simultaneously





elements of the intangible cultural heritage and associated "cultural spaces" need to be rooted in the values and wishes of communities or groups concerned,

4. 無形文化遺産の要素と関連する「文化的空間」を同時に保護するための総合的な措置は、関係するコミュニティやグループのもつ価値観と要望に基づいたものでなければならない。

And consequently,

We, the participants, strongly urge all governments and concerned institutions to organize meetings of experts and all those concerned both in the various domains of the intangible and tangible heritage, to explore future cooperation among those responsible for implementation of the Convention for the Safeguarding of the Intangible Cultural Heritage and the Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage.

従って

我々、パネリストは、すべての政府および関係機関に対し、無形遺産および有形遺産にかかわる様々な分野の専門家及び全ての関係者による会議を企画し実行するよう強く求める。これらの会議では、とりわけ、「無形文化遺産の保護に関する条約」と「世界の文化遺産および自然遺産の保護に関する条約」の執行を担う人々の間の協力可能性を探るべきである。ティーやグループのもつ価値観と要望に基づいたものでなければならない。

And consequently,

We, the participants, strongly urge all governments and concerned institutions to organize meetings of experts and all those concerned both in the various domains of the intangible and tangible heritage, to explore future cooperation among those responsible for implementation of the Convention for the Safeguarding of the Intangible Cultural Heritage and the Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage.

従って

我々、パネリストは、すべての政府および関係機関に対

し、無形遺産および有形遺産にかかわる様々な分野の専門家及び全ての関係者による会議を企画し実行するよう強く求める。これらの会議では、とりわけ、「無形文化遺産の保護に関する条約」と「世界の文化遺産および自然遺産の保護に関する条約」の執行を担う人々の間の協力可能性を探るべきである。

The "Okinawa Declaration on Intangible and Tangible Cultural Heritage" (herein after the Okinawa Declaration) was adopted at the Okinawa International Forum 2004 "UTAKI in Okinawa and Sacred Spaces in Asia: Community Development and Cultural Heritage" held at the National Theatre Okinawa on March 27th, 2004, organized by the Japan Foundation and Okinawa Prefectural Government, and supported by the Ministry of Foreign Affairs, the Ministry of Land, Infrastructure and Transport, and the Agency of Cultural Affairs. The drafting of the Okinawa Declaration began as a discussion in a small working group called by Mr. Kanefusa Masuda, who acted as a coordinator of the Okinawa International Forum 2004. This working group consisted of Mr. Yoshiharu Kamino, Mr. Toshiyuki Kono, Mr. Rieks Smeets, Mr. Herb Stovel, and Mr. Masuda himself. Under the leadership of Mr. Kono, the working group discussed the elements to be included in the Okinawa Declaration for three months prior to the Forum. The outcome of the working group's discussion was presented at the meeting of panelists held on March 26th, and after this discussion to which all present panelists participated, the draft of the Okinawa Declaration was produced. This draft of the Okinawa Declaration was presented at the public Forum on the following day, and adopted by agreement of all those present.

The panelists who participated in the drafting and adoption of the "Okinawa Declaration of Intangible and Tangible Cultural Heritage" are as follows (in alphabetical order).

ANG Choulean (Director of the Department of Culture and Research, the Authority for the Protection and the Management of Angkor and the Region of Siemreap, Cambodia)

ASATO Susumu (Director of the Department of Culture, Urasoe Municipal Board of Education, Japan)

BISE Hiroko (President, Urban Science Associates, Japan)

BOLHAYON-MANANGHAYA Joycelyn (Heritage Conservation Officer, National Commission for Culture and the Arts, the Philippines)

CHAO Chi-Fang (Assistant Professor, National Dong Hwa University, Taiwan)

CHEN Yong-Long (Director, Workshop for Bio-Cultural Diversity, Taiwan)

FUJIOKA Keitaro (Assistant Manager, Streets Section, City and Regional Development Bureau, Ministry of Land, Infrastructure and Transport, Japan)

HAGIO Toshiaki (Head, Cultural Property Section, Culture Department, Okinawa Prefecture Agency of Education, Japan)

HIGASHIDE Noriko (Acting Director, South East Asian Mountain People's Culture and Development Highland Research Institute, Thailand)

KAMINO Yoshiharu (Professor, Musashino Art University, Japan)

KONO Toshiyuki (Professor, Kyushu University, Japan)

MASUDA Kanefusa (Professor, Tokyo National University of Fine Arts and Music, Visiting Professor, Ritsumeikan University, Japan)

OSHIRO Manabu (Director of Planning and Production, National Theatre Okinawa, Japan)

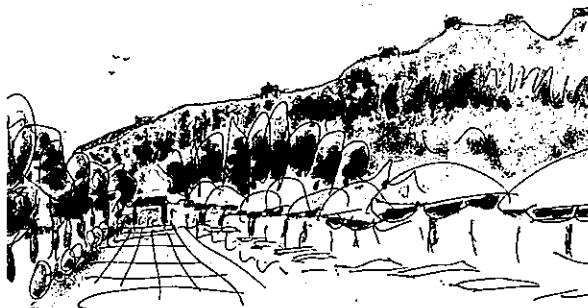
SMEETS Rieks (Chief, Intangible Heritage Section, Division of Cultural Heritage, UNESCO)

STOVEL Herb (Coordinator, World Heritage Convention, ICCROM)

UESEDO Tomoko (Head Priest, Kihoin Temple in Taketomi Island, Japan)

\* Utaki are sacred spaces characteristic of the Okinawa islands, the southernmost islands of Japan. Many of these sacred spaces are small forests or woods where tropical trees and plants grow. In the utaki, are ancestors, divinities from nature such as trees and cereals, or founders of villages are worshipped. Many ceremonies take place here throughout the year. It is the place to which local people feel that their heart belongs, and at the same time it serves as the repository of common memory, and diverse intangible cultural heritages such as songs or dances.

御嶽(うたき)とは：沖縄の島々に特有の聖なる空間であり、その多くは亜熱帯の樹木が繁る小さな森である。御嶽には祖先神が祀られたり、樹木や穀物などのさまざまな自然神や村落の創始者などが崇拝の対象とされている。ここでは、年間を通して多くの儀礼が行なわれ、地域の人々の心の拠り所となり、同時に共通の記憶や、歌や踊りなどの多彩な無形文化遺産をとどめる空間である。



2004.03.27



## ICOMOS 国際専門分科委員会 CIAV 2004 年次会議の企画

前野まさる

ICOMOS 専門分科委員会の一つヴァナキュラー建築委員会 (Comittee International d'architecture vernacular 通称 CIAV) は、毎回テーマを定めて各国持ち回りで年次会議を開催しております。2003 年度はオランダにおいて “The Future of Historic Farm Buildings in A Changing Society (変化する社会における農家建築の将来像)” をテーマに開催されました。本年度は日本が担当し、2004 年 10 月愛媛県において開催すべく、現在、鋭意準備を進めております。

### 主題・目的

「歴史的伝統的民家・町並みの持続可能な保存方策について」 “Sustainable Conservation System for the Vernacular Architecture, Historical Towns and Villages”

歴史的伝統的民家・町並みの持続可能な保存方策について町並み保存の運動家、地域住民、行政と国際的な専門家が彼らの経験を通じ、研究・討議・交流を行ない、将来に向けて保存の有るべき方策を探ることを目的とする。従って今回の CIAV2004 は現地において地域の人々をはじめ行政や専門家と CIAV 委員が直接交流する機会として見学とワークショップに多くの時間を費やし、あわせて意見交換の場として国際シンポジウム「民家町並み保存に関する世界の集い (仮称)」を一般公開で開催する。

### 開催地選定理由

愛媛県は 2004 年 4 月～10 月にかけて「愛媛町並み博 2004」を開催する。これは内子町・宇和町・大洲市を中心に「地域が継承してきた物心両面の価値を、地域の人たちが自ら再発見する」博覧会で、新たな施設建設に頼らず「町並み」をキーワードに地域の潜在力を引き出そうとする試みである。内子町は重要伝統的建造物群保存地区としての長年にわたる実績をもつとともに、町並みの中核をなしている。町並みについて、それぞれ異なる条件を持ちながら、共通して「地域生活に根ざした持続可能な町並み保存継承手法」を目指している。した

がって今回の CIAV2004 を愛媛町並み博 2004 の会期中に当該地域で行ない、そこに全国町並み保存連盟の活動実績や保存修復技術に関する蓄積をおり混ぜつつ CIAV 各国委員の世界的視野における交流および意見交換を行なったならば、まさに「地域生活に根ざした持続可能な民家建築と歴史的町並み・集落保存のシステム」に関して具体的かつ実質的な方法論を示すことも可能である。

### おもな日程 (案)

- ・第 1 日：10 月 12 日 (火)  
愛媛県町並み博 2004 実行委員会による歓迎レセプション (松山市内泊)
- ・第 2 日：10 月 13 日 (水)  
宇和町：重要文化財開明学校民家・町並みガイダンス / 宇和町町並み、保存会活動見学・交流  
大洲市：再現された大洲城天守閣のふもとで町並みガイダンス / 武家屋敷活用事例と臥龍山荘など  
内子町：護国～八日市重伝建地区見学と保存会活動見学・交流 / 重要文化財上芳我家 / 内子町の歓迎レセプション (大洲市内泊)
- ・第 3 日：10 月 14 日 (木)  
国際シンポジウム「民家・町並み保存を語る世界の集い (仮称)」 (一般公開)  
内子座会場：開会宣言 / シンポジウム趣旨説明と問題提起 / 基調講演 (仮題：日本における歴史的町並み保存の特質)  
自治センター会場：講演など / 意見交換 / まとめ  
地元有志との会費制懇談会 (内子町および大洲市内泊)
- ・第 4 日：10 月 15 日 (金)  
CIAV 委員を中心としたワークショップ (一般参加も可能) 宇和町、大洲市、内子町に分かれて意見交換。  
自治センターにて全体意見交換 / まとめ / 閉会  
～松山へ移動 (松山泊)
- ・第 5 日：10 月 16 日 (土)  
CIAV 年次会議および CIAV2004 閉会式 於：松山市内  
引削、御手洗町並み見学 (福山泊)

・第6日：10月17日（日）

韮町町並み、宮島、原爆ドーム見学 ～帰国へ

## お知らせ

プロヴディフ市が石井昭教授に名誉市民の称号を授与  
在ブルガリア日本大使館ホームページより  
2004年3月30日、日本ICOMOS国内委員長前会長の  
石井昭・東京都立大学名誉教授が、ユネスコ文化遺産保  
存日本信託基金によるプロヴディフ旧市街保存事業実  
現のための貢献に対して、プロヴディフ市より名誉市  
民の称号を授与されました。プロヴディフ市で行なわ  
れた授与式で、石井名誉教授はチョマコフ市長より記  
念に町の鍵を贈与されました。

ハーグ条約50周年記念日：5月14日

2004年5月14日

ICOMOS本部事務局長 Gaia JUNGBLODT より

The year 2004 marks two important dates for the "1954 Hague Convention for the protection of cultural property in the event of armed conflict". Today, 14th May 2004, is the 50th anniversary of the 1954 Convention, and on 9th March 2004 the Second Protocol of the Convention finally entered into force.

The 50th anniversary is being celebrated by a conference today at UNESCO in Paris, where the International Committee for the Blue Shield (ICBS), of which ICOMOS is one of the four founding members, has been invited to make a presentation - see [www.ifla.org/blueshield.htm](http://www.ifla.org/blueshield.htm) for more information on the ICBS.

All ICOMOS National Committees are invited to raise awareness nationally on these important international legal instruments and to encourage their countries to become State Parties to the Convention and its two protocols, if they have not yet done so. The texts are accessible on the UNESCO web site and also directly from the ICOMOS web site [www.icomos.org](http://www.icomos.org)

I particularly draw your attention to a very useful "Information Kit" on the Convention and its two protocols which the International Standards Section of the UNESCO Culture Division has just released. It will greatly help you in your awareness raising efforts and can be downloaded in pdf format at [http://portal.unesco.org/culture/en/ev.php@URL\\_ID=20433&URL\\_DO=DO\\_TOPIC&URL\\_SECTION=201.html](http://portal.unesco.org/culture/en/ev.php@URL_ID=20433&URL_DO=DO_TOPIC&URL_SECTION=201.html) or on the ICOMOS web site. If you have difficulty downloading the information kit, the Secretariat can send you a paper copy by post upon request.

### "THE BEST IN HERITAGE"

Invitation to International heritage forum  
DUBROVNIK, 16-18th Sept. 2004

2004年5月15日

European Heritage Association, Dr. Tomislav Solaより

"THE BEST IN HERITAGE" is a major international forum which provides a promotional spotlight on the most professionally creative and educational heritage developments all over the world. Each year we provide an international showcase and presentation forum for over twenty award-winning and innovative projects, and present them to the wider professional public and the international media. It is a unique gathering of heritage expertise and international exchange of ideas. This is not a competition. We do not evaluate these projects or give prizes; - we just present their excellence and share it with the interested, ambitious colleagues.

The gathering provides an international platform of promotion for the most innovative and successful heritage developments internationally. Last year we were 112 from 29 countries. The participants took the opportunity to see the latest developments and hear the latest thinking on the public presentation of all aspects of heritage in the community. The projects presented are representative of the best work in museums, art galleries, landscape interpretation, historic buildings, communication, presentation and publication.

The event is held every September in the beautiful and historic city of Dubrovnik (UNESCO World Heritage Site), with the follow-on event HERITOLOGIA as International Forum of Heritage Studies where we show and discuss innovation



and alternative. To obtain further information, or to book your place, please visit our web site [www.TheBestInHeritage.com](http://www.TheBestInHeritage.com)

**Loving it to Death: Sustainable Tourism at Historic Places, Port Arthur Historic Site, 25-28th Nov. 2004**

2004年5月14日

Australia ICOMOS 事務局より

The Port Arthur Historic Site, in association with Australia ICOMOS, Tourism Tasmania and the University of Tasmania Sustainable Tourism Cooperative Research Centre, will host a conference at Port Arthur in November 2004. A wide range of speakers will examine the issues involved in promoting, managing and sustaining cultural tourism in places of historic significance. The conference will provide a forum for a dialogue between participants from the cultural tourism industry, from tourism operators, promoters and planners, to archaeologists, historians and interpreters.

Theme : The conference will highlight and examine the tensions that inevitably arise in the management of historic places that have become tourism destinations, where competing values, expectations and objectives can often collide. It will examine and develop the theme under the following sub-themes:

**Integrity**

- Understanding the place research, policy and planning
- More than one story then, now and in between
- The history trail - comparisons can be odious
- Additional attractions what fits and what doesn't?

**Sustainability**

- Fabric wear and tear the death of a thousand cuts
- The need for infrastructure visitor expectations?
- Carrying capacity a black art?
- What's in it for the community?

Call for Papers : Abstracts should be limited to 200 words, plus a 50 words biography. Papers must be submitted for consideration by the programme committee by Friday 25 June. Enquiries and abstracts should be directed in the first instance to: Paula Leishman, Leishman Associates Conference Managers

Tel: (03) 6234 7844 / Email: [paulal@leishman-associates.com.au](mailto:paulal@leishman-associates.com.au)

**Third Annual Conference on Science and Technology in Archaeology and Conservation**

7-11th Dec. 2004 - Hashemite University, Jordan

2004年5月5日

Dr. Talal Akashehより

Protection of heritage against Vandalism in peace and war-time consisted an important part of the second conference since it took place shortly after the war in Iraq. The third conference will have some focus, in this year, on the impact of the European supported INCO-MED, EURO-MED research programmes in the field of the protection and conservation of cultural Heritage in the Mediterranean region. A follow-up workshop on vandalism will also be organized.

The conference will invite concerned coordinators and researchers of many of these INCO and EURO projects to present their research results and experiences in INCO-MED and EURO-MED, and demonstrate how these joint projects succeeded in promoting research and heritage conservation by extending and cementing links, and establishing a fundamental base for exchanging knowledge and expertise among researchers across Europe and other Mediterranean partners.

However, the participation is also open to other individuals from Jordan and other countries from all over the world to present new technologies that have been successfully applied to the development of archaeological predictive models. Investigations which have converted archaeological studies from its classical approach to a dynamic one that integrates with modern day Science and Technology.

It is hoped that this conference will encourage the acquisition of heritage information and promote international standards of good practice that show how science and technology with its evolutionary approaches and applications has taken archaeology and conservation of the cultural heritage in new directions.

For further information, contact:

Dr. Monther Jamhawi E-mail: [mjamhawi@hu.edu.jo](mailto:mjamhawi@hu.edu.jo)

Te.: 00962-5-382 6600 ext.: 4683 / Fax: 0962-5-382 6613

(山田幸正)

# 日誌 事務局

(2004年1月30日～2004年5月7日)



## 2004年

- 1/30 UNESCOより「The World Heritage News Letter」 number42 November-Decemberを受領  
文化財保護振興財団に平成15年度の事業完了報告書を提出  
「第15回国際文化財保存修復研究会 テーマ：日干し煉瓦の保存」（於 東京文化財研究所セミナー室）に前野委員長、他出席
- 2/12 パリ、ICOMOS本部より 京奈和高速道路についてのFAXを受信
- 2/12 パリ、ICOMOS本部からの依頼により2004年度会員費を125名分送金する
- 2/20 日本ユネスコ協会連盟より「世界遺産 年報2004」を受領
- 3/1 日本ユネスコ協会連盟より「ユネスコ」2004 3 vol.1090を受領
- 3/3 パリ、ICOMOS本部に2004年次の日本イコモス国内委員会の会員数、昨年度入会の会員並びに退会者のリスト、住所変更を送付  
2004年次日本イコモス国内委員会委員名簿作成、印刷
- 3/5 [JAPAN ICOMOS INFORMATION]第6期1号を発行 維持会員を含む全会員及び関係団体に順次送付  
文化財保護振興財団に助成金の申請書を提出
- 3/17 パリ、ICOMOS本部より2003年次に入会した会員のカードを受領
- 3/21 2004年次第1回拡大理事会を開催（於：文化財保存計画協会 3F会議室）
- 3/22 「ユネスコ世界遺産センター及びイコモス職員との会談」（3/21開催の「石見銀山遺跡国際シンポジウム」の結果を踏まえ、今後の産業遺跡の保護及び文化財の国際的な保護を検討するための会談於：パレスホテル）前野委員長が出席、他参加者はアレッサンド・ナルサモ氏（ユネスコ世界遺産センター）、ユッカ・ヨキレット氏（イコモスアドバイザー）、文化庁職員、島根県職員
- 3/24 昨年入会の会員9名にイコモスカードを送付
- 3/28-4/6 第5小委員会、Bulgarian-Japanese ICOMOS Joint Working Groupは現地ブローディアにて会議を開催、日本から石井氏、麓氏が出席
- 3/29 パリ、ICOMOS本部、Regina Durighello氏に「京奈和高速道路」についての日本イコモスの見解を送る
- 4/5 パリ、ICOMOS本部へ「Heritage at Risk Report 2004」を送る
- 4/12 ユネスコ・アジア文化センターより「文化遺産ニュース」vol.10を受領  
UNESCOより「The World Heritage newsletter」43. February-March 2004を受領
- 4/19 東京文化財研究所より「イラク文化遺産保護の地平線 第14回国際文化財保存修復研究会報告」を受領
- 4/23 東京文化財研究所 国際文化財保存修復協力センターより 次の3冊受領  
「アフガニスタンの文化遺産の復興をめざして」、「Public Systems for the Protection of Cultural Heritage : Organization, Human Resources and Financial Resources」、「千原大五郎資料目録（写真・論文・図面編）」
- 4/30-5/1 「朝鮮通信使の道、日韓国際歴史都市会議2004」が韓国の釜山、蜜陽で開催される  
日本イコモスから前野委員長、三宅理一氏、西川幸治氏が出席
- 5/7 マハット氏来日（CIAV）、夜マハット氏の歓迎会開催（於：国際文化会館）

## 日本イコモス国内委員会 維持会員（代表者）

株式会社 尾田組（尾田芳信）	株式会社 鴻池組（大岩祥一）
株式会社 総合計画機構（近藤正廣）	株式会社 都市環境研究所（矢嶋啓自）
株式会社 乃村工芸社（乃村義博）	株式会社 ブレック研究所（杉尾伸太郎）
株式会社 文化財保存計画協会（矢野和之）	「国宝松本城を世界遺産に」推進委員会（有賀 正）
大成建設株式会社（葉山亮児）	株式会社 トリアド工房（伊藤民郎）
西武建設株式会社（松下和徳）	（順不同）

日本イコモス国内委員会の活動には以上の企業のご支援をいただいております。

●日本イコモス国内委員会 理事会 JAPAN-ICOMOS EXECUTIVE BOARD

President	委員長	前野 まさる	Masaru MAENO
Trustees	理事	赤坂 信	Makoto AKASAKA
		稲葉 信子	Nobuko INABA
		岡田 保良	Yasuyoshi OKADA
		小野 昭	Akira ONO
		河野 俊行	Toshiyuki KONO
		杉尾伸太郎	Shintaro SUGIO
		田中 哲雄	Tetsuo TANAKA
		西浦 忠輝	Tadateru NISHIURA
		漢崎 一志	Kazushi HAMAZAKI
		日高健一郎	Kenichiro HIDAKA
		益田 兼房	Kanefusa MASUDA
		町田 章	Akira MACHIDA
		宮川 朝一	Asaichi MIYAKAWA
		矢野 和之	Kazuyuki YANO
		山田 幸正	Yukimasa YAMADA
		渡邊 保弘	Yasuhiro WATANABE
Auditors	監事	沢田 正昭	Masaaki SAWADA
		西谷 正	Tadashi NISHITANI
Advisors	顧問	石井 昭	Akira ISHII
		伊藤 延男	Nobuo ITO
		坪井 清足	Kiyotari TSUBOI

小委員会 WORKING GROUPS

Chiefs	主査	藤井 恵介	Keisuke FUJII
		羽生 修二	Shuji HANYU
		日高健一郎	Kenichiro HIDAKA
		稲葉 信子	Nobuko INABA
		石井 昭	Akira ISHII

●国際諸委員会参加者 REPRESENTATIVE TO INTERNATIONAL COMMITTEES

Vice President	西村 幸夫	Yukio NISHIMURA
Advisory Committee	前野 まさる	Masaru MAENO
Specialized Committee on:		
Archaeological Management	小野 昭	Akira ONO
	岸本 雅敏	Masatoshi KISHIMOTO
Analysis and Restoration Structures of Architectural Heritage	日高健一郎	Kenichiro HIDAKA
	坂本 功	Isao SAKAMOTO
Historic Towns and Villages	西澤 英和	Hidekazu NISHIZAWA
	福川 裕一	Yuichi FUKUKAWA
	上野 邦一	Kunikazu UENO
Underwater Cultural Heritage Training	荒木 伸介	Shinsuke ARAKI
	稲葉 信子	Nobuko INABA
	工楽 善通	Yoshimichi KURAKU
Historic Gardens and Cultural Landscapes	杉尾伸太郎	Shintaro SUGIO
	本中 眞	Makoto MOTONAKA
Vernacular Architecture	前野 まさる	Masaru MAENO
	大野 敏	Satoshi OHNO
Wood	村上 裕道	Yasumichi MURAKAMI
	伊藤 延男	Nobuo ITO
	渡邊 保弘	Yasuhiro WATANABE
Earthen Architecture	岡田 保良	Yasuyoshi OKADA
Cultural Tourism	宗田 好史	Yoshifumi MUNETA
	石井 昭	Akira ISHII
Legal Issues	河野 俊行	Toshiyuki KONO
Photogrammetry	西村 康	Yasushi NISHIMURA
Cultural Routes	杉尾 邦江	Kunie SUGIO
Stone	西浦 忠輝	Tadateru NISHIURA
	石崎 武志	Takeshi ISHIZAKI
Risk Preparedness	益田 兼房	Kanefusa MASUDA
Rock Art	小川 勝	Masaru OGAWA



## JAPAN ICOMOS INFORMATION

Vol.6, No.2 1 JUNE 2004

日本イコモス国内委員会 委員長 前野まさる

事務局担当理事 矢野和之 編集 山田幸正

〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西1-9-6 アストウルビル3階

株式会社 文化財保存計画協会 気付

Tel & Fax .03-5728-1621 e-mail [jpicomos@kb4.so-net.ne.jp](mailto:jpicomos@kb4.so-net.ne.jp)

### JAPAN-ICOMOS OFFICE

c/o Planning Institute for the Conservation of Cultural Properties

Asutouru Bldg.,1-9-6 Ebisu-nishi Shibuyaku Tokyo 150-0021, Japan

Tel & Fax .+81-3-5728-1621 e-mail [jpicomos@kb4.so-net.ne.jp](mailto:jpicomos@kb4.so-net.ne.jp)